

学校の教育目標：確かな学力と豊かな心を身につけ、何事にも自ら考え行動できる児童の育成

育成を目指す資質・能力：言語能力 問題発見・解決能力

重点目標	達成指標	重点的取組	取組指標	担当	
【生きて働く「知識・技能」の習得】 生きて働く「知識・技能」を身につけた児童の育成	○佐伯市学力調査(国算理)平均点が全国・市の平均点以上 ○単元末テスト中間総合・期末総合(国算理)学年平均点 ・1～3年:85点以上 ・4～6年:80点以上 ○単元末テスト(国算理)の学年平均点の個人平均点 ・40点以下 0人	学校	○新大分スタンダードを基盤とした「わかる授業」を目指した授業改善 ○ONIE新聞を活用した学習活動の実践 ○活用力の向上を目指した特設指導時間の実施	○授業者は、課題(めあて)とまとめ(振り返り)を毎時間設定する。 ○月に2回以上、授業力向上アドバイザーによる指導を受け、授業改善に取り組む。(2名が月1回で計2回) ○授業者は、新聞を活用した学習活動に取り組む。 ・新聞ワークシートを活用した読み取り:週1回 ・新聞記事に関するスピーチ:週5人 ○複数指導体制による、放課後学習(毎火曜日)と朝学習(毎金曜日)を実施する。 ・活用問題(過去問題)に取り組む。	学力づくり部
		家庭	○家庭学習の確認	○保護者は、家庭学習強化週間を毎月取組む。 ・PTA研修部が企画し実施する。 ・「家庭学習がんばりカード」を活用して、親子で学習内容を点検する。	
		地域	○学校運営協議会で学力について熟議する(中学校との連携)	○学校運営協議会の委員は、小中の学力向上に向けて協議する。 ・県・全国学力定着状況調査結果の分析や指導法を協議する。 ・小中両校の取組について協議する。	
		学校	○話し合い活動を設定した授業実践 ○地域人材や素材を活用した学習の実施	○授業者は、毎日1時間以上、児童に考えさせたいことや、つきたい力を明確にした「話し合い活動」を設定した授業を実践する。 ○授業者は、ふるさと創生として、学期に1回以上地域学習を実施する。	
【未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等の育成」】 互いに伝え合うことができる、自分の思いや考えをもち、児童の育成	○単元末テスト(国算理)の「思考・判断・表現」の観点評価 1・2年国算2項目,3～6年国算理3項目 ・A評価が16項目中12項目以上 ○「自分の考えをまとめたり、発表したりすることができた」 ・児童AB評価:110人以上 ○「地域の学習や地域の人とする学習は楽しい」 ・児童AB評価:110人以上	家庭	○地域学習の確認と地域行事への参加(中学校との連携)	○保護者は、学校便りやHPで地域学習についての記事を読む。 ○保護者は、地域学習について評価する。	学力づくり部・心づくり部
		地域	○地域学習への授業支援(中学校との連携)	○校区コーディネーターと連携して、地域人材や素材を活用した地域学習に協力する。 ・2学期中に10人以上	
		学校	○学習状況に応じた家庭学習の実施 ○OPTA研修部と連携した家庭学習強化週間の毎月実施(中学校との連携)	○担任は、毎日意図的・計画的に家庭学習を出し、質の向上と習慣化に努める。 ○家庭学習強化週間中、家庭での取組のチェック状況を確認する。(毎月実施)	
【学びを人生や社会に向かう力・人間性等の涵養】 苦手なことにも進んで取り組む児童の育成	○「進んで家庭学習に取り組んでいる」 ・児童AB評価:110人以上 ○「毎朝、歩いて登校している」 ・児童AB評価100人以上 ○hyper-QU検査の学習意欲が全学級全国平均以上	家庭	○家庭学習強化週間に取り組む(中学校との連携) ○徒歩登校、自力登校させる	○保護者は、「八幡っ子家庭学習の約束」を理解し、家庭学習強化週間の取組に協力する。(毎月実施) ○保護者は、毎朝、子どもを歩いて登校させる。 ・朝のあいさつ運動に参加して、登校状況を把握する。	学力づくり部・体づくり部
		地域	○学校運営協議会で家庭学習について熟議する(中学校との連携)	○学校運営協議会で、家庭学習や徒歩通学の状況について熟議する。	
		学校	○行事、会議等の精選と業務内容の見直し ○在校時間の指針の遵守(中学校との連携)	○学校教育目標に沿った行事の精選と縮小化を図る。 ○校長・教頭は、タイムカードを活用し、月平均の時間外勤務時間が45時間を越えないように呼びかけや指導を行う。 ○教職員は「月2回の定時退庁」に取り組む。	
【働き方改革の推進】 時間外勤務の縮減	○「学校運営は組織的に運営されている」 ・教職員評価:A評価80%以上 ○毎月の時間外勤務時間を45時間以内にする。 ・教職員評価:9～12月の4か月間達成90%以上 ○「先生は話をよく聞いてくれる」 ・児童評価:90%以上	家庭	○OPTA活動等の取組の見直し ○家庭学習等の学校への協力(中学校との連携)	○家庭学習の見届けや励ましなど学校との連携について、PTAの場で学期に1回以上話し合う。 ○OPTA専門部取組についての見直しを学期の部会でを行い、時間短縮や回数精選をする。	教頭・教務主任
		地域	○学校運営協議会への参加と学校支援	○学校運営協議会で、行事等の見直しや精選について熟議する。 ○学校への各種サポートに参加する。	
		学校	○行事、会議等の精選と業務内容の見直し ○在校時間の指針の遵守(中学校との連携)	○学校教育目標に沿った行事の精選と縮小化を図る。 ○校長・教頭は、タイムカードを活用し、月平均の時間外勤務時間が45時間を越えないように呼びかけや指導を行う。 ○教職員は「月2回の定時退庁」に取り組む。	